



市長モリテツの
ほっとトーク

November 2022

ニュータウン再生が目指すもの

— 成長のまちから、成熟のまちへ —

三田市長 森 哲男

フラワータウンに20年前に移住されたという90歳の市民、「三田住善（仮名）」と名乗る方から、先日手紙をいただきました。三田市民として過ごした20年を振り返り、七五調の詩にされたその一節をご紹介します。「二度三田に来てみれば 回り緑に囲まれて 大都市近く似通った タウンタウンの域ありき 住むなら三田 安住の地」想いのこもった素敵な詩です。

昭和57年に「まちびらき」をしたフラワータウンは、たくさん新しい住民を迎え、人々が働き、学び、交流する魅力あるまちへと成長しました。その後、市内には次々とニュータウンが誕生し、昭和62年から人口増加率10年連続全国1位となる契機となりました。

多くの人が移り住むに伴い、新しいコミュニティも生まれ、新しいコミュニケーションも生まれてきました。しかし、時代とともに社会環境は変化し、人口減少、高齢化の進展、住宅や施設の老朽化などにより、まちの姿が大きく変わろうとしています。そしてまちの変化は、市内の他のニュータウンでも見られるようになりました。

このため、市は令和2年度、フラワータウンをモデル地区

第1号に指定し、「ニュータウンの再生」を目指す取り組みを始めました。「ニュータウンの再生」が目指す姿は、人口を戻すことや施設の復活だけではありません。時代の変化に合わせて、若者に魅力的であるとともに、子どもから高齢者まで多世代の誰もが暮しやすい「成熟のまち」に生まれ変わることでもあります。

10月22日から11月3日の間、「フラワータウンまちびらき40周年記念イベント」を開催中です。多くの人に、フラワータウン成長の40年を振り返り、成熟のまちへと歩み始めていることを実感してもらいたいと思います。

フラワータウンの再生が、市内の他のニュータウン再生へとつながり、さらにはまち全体に賑わいをもたらし、駅前の市街地、農村地域の活性化などにつながるものと期待しています。

「三田住善」さんのように、全ての高齢者が「安住の地」として三田に住んで良かった。三田を選んで良かったと思っただけでいいように、市民の皆さんと共に、まちの再生に取り組んでまいります。

Mayor's Photo Diary



10月1日 「三田・北神地域の急性期医療の確保に向けて」の市民意見交換会を実施（計6日間）



10月6日 郷の音ホールで開かれた市ゆかりの画家「おおいし てるかず大石輝一没後50年展」で祝辞を述べました



10月14日 さんだゼロカーボンシティロゴマーク決定。最優秀賞のたまはる あやか玉春綾華さん（北摂三田高）を表彰